

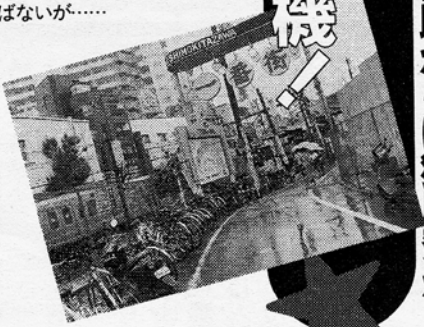
フジ子・ヘミング

地元住民からは猛反発が……

下北沢の道路開発で 自宅「取り壊し」の危機



立ち退きには及ばないが……



この町並みがすべて道路に!?

「あのピアニストのフジ子・ヘミングさんの家も、再開発の波にのまれて取り壊される

かもしれないですよ!」

(下北沢在住の学生)

東京・下北沢。小劇場や古

着店が軒を連ね、昔ながらの若者文化を伝える数少ないこの町でいま、新しい道路計画が進められているというのだ。行政側に話を聞いてみた。この道路建設計画は、そもそも昭和46年からあり、突然

できたものではありません。道路の幅は26メートルですが、半分以上は緑地を含めた歩道になります。

現在の駅周辺には消防車も入れないような場所も多い。防災への配慮やバリアフリー化などの推進も大きな目的です。来春にも認可が下りれば、土地買収を行い、平成25年くらいでの完成を目指しています(世田谷区・街づくり課の担当者)

26メートルといえば環状7号線と同じ規模。その広い道路が商店街を分断することになるというのだ。

近隣住人や、過去下北沢に住んでいたことのある「下北愛好家」たちは「Save the 下北沢」というグループを結成し、この計画に反対している。メンバーの下平憲治さんは、

「道路ができてしまったら現在の町並みや雰囲気は壊され取りかえしのつかないダメージを与えてしまいます。車を入れたらかえって治安の悪化も考えられる。話し合わなくてはならないことが多いのに、区の方針によって計画がどんどん進んでいます」と、懸念を語る。

下北沢の住民、フジ子・ヘミングさんも「Save the 下北沢」のHPにメッセージを寄せている。

「下北沢を銀座や渋谷、新宿のようにして、これで世界におとらない一流の町になった」と云って喜ぶオチさん達がたくさんいることを想像しただけで、ゲロがでます」

そんな憤りを語る彼女だが果たして家はどうなのだろうか!? 行政にぶつけると「家自体には影響は出ません(前出・区担当者)とのこと。とりあえずの危機は回避できた。フジ子さん以外にもバンド『くるり』の岸田繁、講師の神田陽子など多くの文化人が、下北沢を愛するがゆえに反対を訴えている。

下北沢で生まれ育った小池栄子(23)も熱弁を振るう。

「下町っぽい雰囲気や住人の温かさが大好き。子供から大人まで安心して住める場所です。商店街が変わるのは反対! いまの街が親しまれているのに、なぜ壊す必要があるのか? 納得いきません」シモキタ道路戦争、しばらくは熱を帯びそうである。